

雷電国道開通記念碑制作雑感

米坂 ヒデノリ

1965年10月某日、一通の手紙が舞い込んだ。岩内町が雷電に記念碑を建立することになったので来てもらいたいという内容である。差出人は会員の坂口清一氏。当時は面識がなかった。展覧会でボクの作品に留意して下さったという。

岩内については、有島武郎の「生まれ出づる悩み」を通して得た知識しかボクにはなかったし、大火後は、家内の姉によって町の苦勞を想像していただけであった。

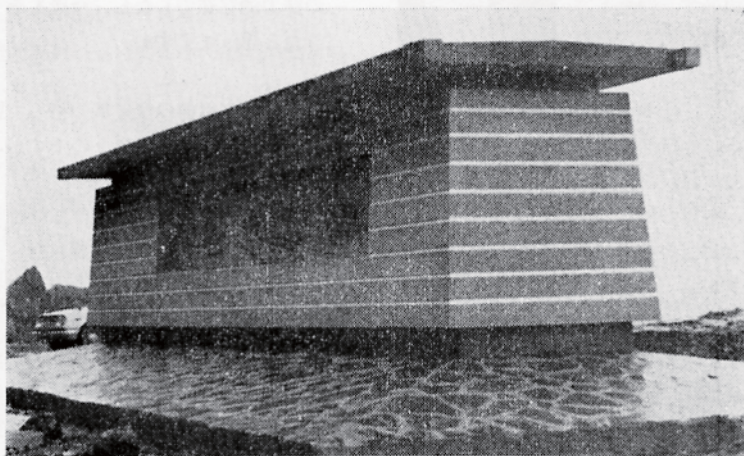
建立予定地に出かけて大きさをきめる。高さ3米、幅11米、厚さ2米のニシン小屋を型どったコンクリート製のモニュメントに、網を曳く男たちの青銅レリーフを横長に嵌め込む事にした。この地にもっともふさわしいテーマだと考えたからである。

ボクの祖父は食いつめ者の子として道南に生まれた。逃げるように釧路へ来たけれど、一と旗もあげ得ずこの地の土となった。1尺先も見えないような霧がかかるのは近年まれになったし、道路が音をたてて割れ返る寒さもなくなった。このことに思い至るといつもボクの目頭はあつくなるのだ。

「ここは昔海岸に道路なく、山越えをした処である。旧山道は安政3年幕府の命によって当時の運上屋がこれを改修し、昭和6年、池田北海道庁長官が親しくこれを視察されたのを機に海岸道路開削の議が起き、その後、昭和26年6月起工、昭和38年10月完工、工費8億4千万円をもって40年間に亘る地方住民多年の願を達したものである。昭和41年9月」

記念碑側面にはこう刻み込まれたが、敢えて制作者名は入れてもらわなかった。

(1967. 4. 24)



服部紙店

札幌支店

札幌市南大通西9丁目 電話 (24)9211(代表)

- 印刷のこと
 - 包装のこと
 - 製袋のこと
 - 段ボールのこと
 - ポリエチレンのこと
- なんでもご相談下さい